

第4回 学校デザイン部会 会議報告

日 時:令和7年7月14日(金)

午後4時～5時15分

場 所:川岸小学校2階 ふれあい教室

○次 第

1 開会

2 議題

(1) 義務教育学校のグランドデザイン(案)について

(2) 日課表(案)について

3 閉会

○部会で確認した内容

【議題1】義務教育学校のグランドデザイン(案)について

・第3回デザイン部会での意見を受け、共有したい「子ども観」を新たに盛り込んだ。

「子どもは本来、自らの内に『知りたい』『できるようになりたい』『○○のようになりたい』という思いを抱き、よりよく生きようとする存在である」との認識を共有することが重要であり、この「子ども観」はウェルビーイングの概念とも関連し、子どもたちが自らの幸せを願いながら生きる姿へとつながるものである。

・学校教育目標については、岡谷市教育大綱に掲げる文言や小中学校の教育目標を参考に、「自立し、共生し、幸せな未来を拓いていく子ども」とした。これも「共有したい子ども観」やウェルビーイングとの関係を意識している。

・認定こども園の教育目標については、今後の幼保小中の連携を意識し、加えることとした。

・前期課程の「めざす子ども像」については、川岸小学校の本年度の「具体目標」を基盤に、「自らいどむ」「自らつなぐ」「自らつむぐ」を掲げた。

・後期課程めざす子ども像については、岡谷西部中学校の学校教育目標を基盤とし、「自立」と「共生」を掲げた。

・特色ある教育課程として、9年間(あるいは未滿児も含めて15年間)の学びのイメージを加えた。

・学校運営の重点については、昨年度までの小中学校の取組を整理し、以下の4項目に分けて記載した。

①「探究的な学びの充実」

生活科・総合的な学習の時間の充実、「問い」を大切にした授業づくりなどを含む。

②「子どもが主体の授業づくり」

小学校では対話や言語活動の充実を推進し、中学校では個別最適な学びを進めている。それぞれの良さを生かし、特に勤勉性が身につくとされる小学5年生までに「自ら取り組む家庭学習」を推進していく。

③「自己肯定感・自己有用感の向上」

児童会・学友会活動の連携を強化し、子ども主体の学校運営を重視。「きまり」の見直しを通じて、子どもの問題意識を大切にする姿勢を示す。

④「誰一人取り残さない学校に」

人権教育や特別支援教育の充実を図り、ユニバーサルデザインの推進、通級教室との連携、スマイル教室やサポートルームなど、多様性を包み込む環境づくりに取り組む。

・「地域との連携」については、新たに整備される「ふれあい教室」を地域交流の場として活用するほか、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部、PTA 活動の充実についても記載した。

【議題2】日課表(案2)について

- ・小学校と中学校の時間調整のため、小学校の2時間目終了後の休み時間を25分から20分に短縮した。
- ・3時間目終了から4時間目開始までの間に中学校から小学校へ移動する教員は、移動時間が5分間しかなく、時間的には厳しいか。
- ・中学校では、給食後に5時間目の授業を実施し、清掃時間を6時間目終了後に設定した。

○部会で出た意見

【議題1】川岸小学校及び岡谷西部中学校のグランドデザインについて

▶表現の見直し等に関する意見について

- ・「誰一人取り残さない学校に」という表現を、子どもを主語にするなら「誰一人取り残されない学校に」としてはどうか。県もこの表現を用いている。
- ・「特別支援教育を真ん中に」とあるが、「インクルーシブ教育」の視点も加えてほしい。包み込む範囲(学級・学校・地域)をどう捉えるかが重要である。
- ・「共有したい子ども観」は、学校や教職員だけでなく、地域や保護者も含めた表現にできるとよい。
- ・「学校教育目標」という表現が適切か。「子どもが主語」の目標とすることが望ましい。「(子どもたちが)自立し、共生し、幸せな未来を拓く」など。
- ・学校、地域、保護者がともに子どもを育てていくというニュアンスを含めた表現が必要。
- ・教師や地域も共に成長できる場として、「子ども」に限定しないグランドデザインが望ましい。
- ・今年度のグランドデザインにある「失敗を乗り越える中から学ぶ」という記載を新しいグランドデザインに盛り込んだらどうか。
- ・「共有したい子ども観」と「学校運営の重点」の関係性をより明確に示すとよい。
- ・PTA 活動について、川岸学園を契機に発展的な再編や新たな共同体の創設を検討できないか。

⇒PTA・コミュニティ部会では、1～9年生を対象とする単一の PTA 組織のあり方や委員会の見直しを検討中。現時点では「発展的な解消」は予定していない。

▶グランドデザイン及び日課表の小中教職員間の共有について

- ・グランドデザインはデザイン部会以外の教職員にも共有し、意見を募るべきである。
- ⇒修正後のグランドデザインおよび日課表を共有し、各校で議論を行い、その意見を次回の部会で取り上げていく。

【議題2】日課表(案)について

▶時間配分・移動時間について

- ・小中教員が授業を担当する場合、5分間の移動時間は短すぎるとの意見。
- ・教員の負担軽減のため、小学校内で教科担任制を取り入れるなど、工夫が必要。
- ・理科については、中学校2名(うち1名は技術科)、小学校1名の専科で対応中。現状のまま各校で担当するのが現実的ではある。
- ・小学校と中学校の先生方がそれぞれ違う環境で指導することで、子ども達だけでなく先生方にも学びがある。その視点も大切にしたい。
- ・教科担任の授業終了後に空き時間がある場合は対応可能。空きがなければ教員の負担が大きい。
- ・理科の場合、中学校が2名(1名技術科)、小学校が専科で1名。小学校、中学校でそれぞれが担当するというのが無難ではある。

▶授業時間の見直しについて

- ・小中で授業時間の統一(45分)も一案。新学習指導要領(小学校40分、中学校45分で検討)が2030年実施予定であり、2027年度からの前倒しを考えてもよいのでは。
- ・ただし、中学校は高校入試(50分)に対応するため、授業時間の変更には慎重な意見も多い。
- ・45分授業は可能だが、テスト時間が50分である以上、慎重に検討する必要がある。

▶「週5時間授業」の拡大について

- ・川岸小は現在、月・水曜日が週5時間授業。他市の学校に勤務しており、毎日6時間授業で負担が大きい。せめて週3日、5時間授業となれば、教材研究や授業の質向上が期待できる。
- ・一方で、5時間授業の導入には登校日数の増加が必要であり、夏休みの短縮などが必要となる。教師としても意見が分かれるところ。
- ・岡谷西部中では日照時間が短い冬期(12月・1月)に毎日5時間授業を実施しており、参考事例としたい。

▶日課表の試行について

- ・仮設校舎完成後、令和8年4月から小中新日課表による運営を予定したい。ただし、本格導入前に、最低3日～1週間の試行期間を複数回設けるべき。
- ・試行時期としては、中学校の高校入試後という話もあるが、試行運用して、それ

を基に日課表を修正する作業があるので、二学期中のどこかで試行期間を設定していきたい。

- ・教員の移動がなく授業時間のみ調整するなら、入試前の試行も可能と考えられる。学校に持ち帰って、先生方の意見を聞いて検討する。

▶新日課表の導入時期について

- ・新しい日課表の導入は、令和8年4月から実施予定。

○今後の検討事項

- ・グランドデザインは本部会での意見を反映し修正後、小中学校の教職員で共有し、意見を収集する。

- ・日課表(案)は、今後の意見交換を踏まえて「案2.1」(案1で不都合な点を修正したもの)、「案3」(後期課程の授業時間を45分間に、5時間授業を増やす等、大幅な変更を加えたもの)も検討し、小中学校間で共有。試行期間の時期は教職員の意見を基に再調整を行う。

○次回の日程について

- ・令和7年8月22日(金) 16時00～ ふれあい教室

【共有したい子ども観】

子どもは、本来、自らの内に「知りたい」「できるようになりたい」「〇〇のようになりたい」という思いを抱き、よりよく生きようとしている存在である

【第3期岡谷市教育大綱】

自立し、共生し、想像力溢れる『おかやのひと』づくり

【学校教育スローガン】

生き抜く力と想像力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり

【認定こども園 教育目標】

【学校教育目標】自立し、共生し、幸せな未来を拓いていく子ども

【前期課程 めざす子ども像】

自らいどむ…自ら学び、よりよく問題を解決する子
 自らつなぐ…友や地域とのつながりを大切に支え合う子
 自らつむぐ…よりよい未来を創造しようとする子

【後期課程 めざす子ども像】

自立…自他を大事に、自ら考え、判断し、責任をもって行動する子
 共生…多様性を認め合い、他者の考えに学び、自分の考えを広げたり深めたりする子

【特色ある教育課程】～「憧れ」と「慈しみ」の中で～

認定こども園				前期課程						後期課程			
「根」を伸ばし — 活動力 —				「芽」を育み — 自制力 —			「葉・枝・幹」を育て — 共感力 —			「花」を咲かせる — 調整力 —			
未満児	年少	年中	年長	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	
学習・行事・交流活動 (例)	教員・ALT 等の乗り入れ体験授業			学級担任制 (単元テスト)						教科担任制 (定期テスト)			
										児童会		学友会	
				運動会・音楽会									
										文化祭・合唱コンクール			
	集会・あそび・教科 (図工美術・英語・体育・総合的な学習の時間等) など、多様な交流活動や合同授業を柔軟に計画												

【学校運営の重点】

探究的な学びの充実

- ◎生活科・総合的な学習の時間「えがおにじいろタイム」（前期課程）と「岡谷未来の時間（花咲く丘プロジェクト）」（後期課程）の充実
- ・「やりたいこと」に心ゆくまで取り組む時間に
- ・地域とつながる学びへ
- ・岡谷スタンダードカリキュラムの活用と深化
- ◎教科も探究的に学ぶ
- ・「問い」を大切にした授業づくり

子どもが主体の授業づくり

- ◎対話・言語活動の充実
- ・「問い」から生まれ、対話することで考えや思いを深める子ども主体の授業へ
- ◎個別最適な学びの推進
- ・自分のペース、方法、環境で取り組む学習の構築
- ◎児童生徒が自ら取り組む家庭学習への転換
- ・計画を立て、振り返ることによって深める自主学習により「勤勉性」を育む
- ・自律的な探究学習に挑戦

自己肯定感・自己有用感

の向上

- ◎児童会・学友会活動の充実
- ・児童会・学友会の連携・交流の推進
- ◎児童生徒の学校運営への参画
- ・子どもが主体の行事運営
- ・子どもの問題意識を大切に「きまり」の見直し
- ◎集会活動の充実（前期、後期、全校等様々な単位で）
- ◎児童生徒の自主的活動を認め、広げ、後押しする教師の働きかけ

誰一人取り残さない学校に

- ◎人権教育の充実
- ・なかよし（人権）旬間、いじめ根絶の取り組み
- ・情報モラル教育
- ・命を守る防災安全教育（反射タスキの着用）
- ・道徳教育、平和教育の推進
- ◎特別支援教育を真ん中に
- ・ユニバーサルデザイン化・個に応じた合理的配慮の推進
- ・通級教室との連携支援
- ◎多様性を包み込む環境づくり
- ・スマイル教室、サポートルーム、自立支援教室の効果的運営

地域との連携 — ふれあい教室を地域のサロンに —

- ◎川岸コミュニティ・スクールとともに
- ・学校運営協議会による学校運営の見直しと充実
- ◎地域学校協働本部の充実（安全部・健全育成部・学校支援部）
- ・ふれあいパトロール
- ・とちっ子ひろば
- ・自然の玉手箱
- ・ともそだちボランティア
- ・おはなしポケット
- ◎PTA活動の充実と家庭との連携強化

教職員の資質・能力と同僚性の向上

- ◎児童・生徒理解を原点に
- ・子どもへの眼差し、人権感覚を磨き続ける
- ・子どもの主体的学びの伴走者として
- ◎自身を省察し、常に学び続ける教師に
- ・校外研修・校内研修・OJT・教師相互の対話の充実
- ◎チーム・組織で取り組める職員集団に
- ・分担を明確に、のりしろを厚く
- ◎働き方を見直し、ワークライフバランスを大切に

令和9年度

日 課 表 (案2)

岡谷市立川岸学園

小学校時刻	日課	月	火	水	木	金	日課	中学校時刻
	開門 7:50							
					集会	朝読書		8:10～8:20
8:20～8:35	朝の会					朝の会		8:20～8:30
8:35～	準備・移動(10分)				朝の会	準備・移動(10分)		
8:45～9:30	1校時	1	6	12	17	23	1校時	8:40～9:30
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
9:40～10:25	2校時	2	7	13	18	24	2校時	9:40～10:30
10:25～10:45	休み時間						準備・移動(15分)	
10:45～11:30	3校時	3	8	14	19	25	3校時	10:45～11:35
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
11:40～12:25	4校時	4	9	15	20	26	4校時	11:45～12:35
12:25～13:20	給食						給食	12:35～13:30
13:22～13:35	清掃			13:20～ 14:30			移動	13:30～13:40
13:45～14:30	5校時	5	10	16	21	27	5校時	13:40～14:30
準備・移動(10分)							準備・移動(10分)	
14:40～15:25	6校時	14:30～ 14:40 帰りの会	11	14:30～ 14:40 帰りの会	22	28	6校時	14:40～15:30
15:25～15:35	帰りの会	下校 14:55 バス		下校 14:55 バス			清掃	15:40～15:55
15:40	下校						帰りの会	16:05～16:30
16:01	バス	15:07		15:07			下校	16:35

◎現在の小中それぞれの時間割をもとに時間を調整した。

◎職員の移動(小→中, 中→小)ができるよう業間に余裕を持たせた。

〈小学校〉

- 給食時間が現行より5分短い
- 休み時間が現行より5分短い

〈中学校〉

- 5校時以降が現行より5分遅れる